

連珠っておもしろい

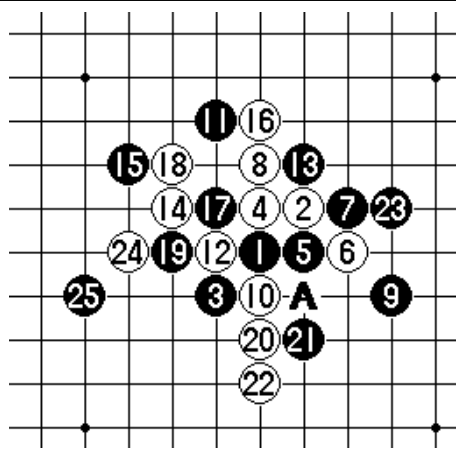
九段 河村典彦

●第22回●

挑戦手合い自戦解説

前回、A級リーグの自戦記もどきを書いたが、正式な自戦記が連珠世界に掲載される(2月号の予定)ため、予告編のようなものがあった。しかし、今回の挑戦手合いは連珠世界に自戦記が載らないのでここだけの解説となる。

順にポイントを紹介してこよう。まずは第1局。



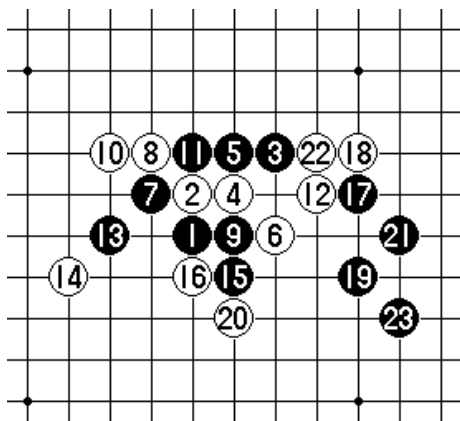
これまで何回も書いているが、挑戦手合いでの第1局は非常に重要である。ただ、必殺の作戦があるわけがなく、この相手ならじつくりいかなんといけないのだが、どうしても先を急いでしまう。この原因の一つは持ち時間があると思う。どうも私はA級程度の持ち時間が合っているらしい。(と気がついたのは最近だが)変に長くあるので最初のうちは時間の使い方を考えるのに時間を使ってしまったり、午前中はたいして深く考えられないので、時間負けにはならないように気を使ったりしてしまったり。例によって頭の中は変なフレーズが駆け回り、あまり集中できなかつた。午後になるとだんだん集中してくるのがわかるのだが、特に第1局は最初ということもあって、エンジンのかかりが悪い。黒23を見た時は「欲張りだな」と思い、何

かあるはずだということでも読んでみたが、追い詰めは発見できなかった。黒にAに入られる手が(含み手ではないのだが)怖く、味良く処理もできなかった。で、一手ばつたりの敗着を出してしまった。

もう一つ、長い持ち時間の弊害が秒読みである。時間の落差が激しく、年を取って読むスピードが落ちてきた最近では特に恐怖に感じる。できるだけ秒読みにはなりたくないという深層心理が、かえって早打ちに拍車をかける。

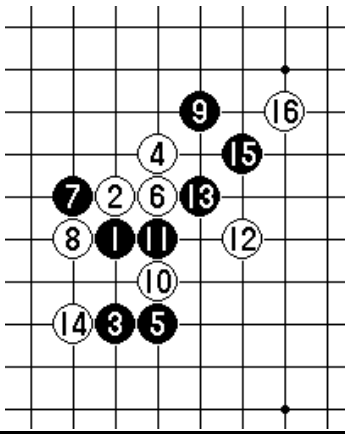
続いて第2局。これは序盤の作戦がやや甘かつたとはいえ、長谷川名人の打ち回しを褒めるべきだろう。もともとこの白10は、相手の猛攻を凌ぐ展開になる。「左半分はこつちのものですよ」と主張している訳なので、黒は右や下で勝ちを出さないと割に合わない。白20が結果的には甘かつ

たのだが、黒23が絶好手で、これでしびれてしまった。



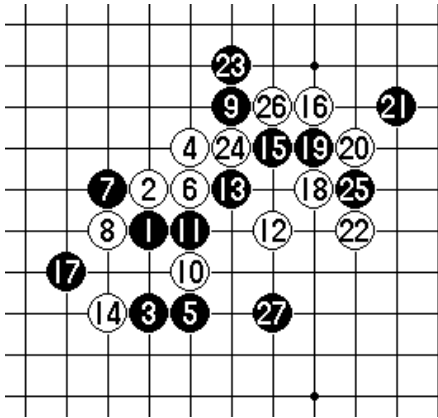
ただ、この前の黒15、17、19の3手も味わい深い。黒15は交換に急所の白16を打たせてくれるだけにありがたいと思つたが、黒19を打つための布石であつた。まるで長距離走でスピードを変化させて相手を振り落とすような打ち方である。私も必死で粘つたが、さすがに黒が勝つようにできてあつた。この局は完敗であつた。

序盤2連敗では勝敗の行方は決まったようなものだが、こちらにも意地がある。みっともない負けだけは避けようと第3局に臨んだ。瑞星は予想通りだったが、白12の変化は予想外だった。私もついぶん前からこの手は打てないか研究していたが、あまりよくないと感じを持っていった。しかし、白14の防ぎが発見され、打てるようになったのだと思う。とりあえず黒は15と引くよりないので、この形が基本形となる。



この形がありがたいのは、稲妻からも戻ることである。最近下火になった感のある

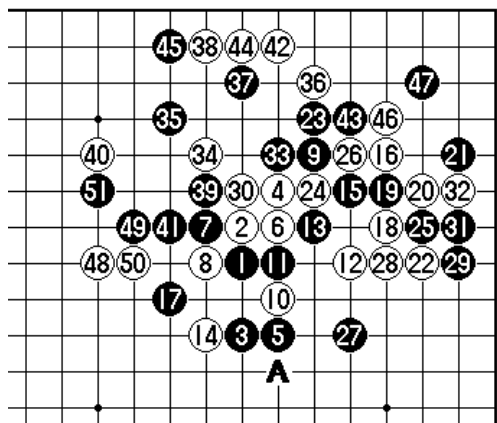
稲妻だが、またそろそろ復活してもよさそう。さて、ここからは非常に手が多いところなので迷ったのだが、結論として、おとなしく黒17と叩いた。ただ、この手はおとなしすぎたかもしれない。この手の意味は、第2局と同じように相手に攻めてくださいという手で、正直作戦負けを自認している。当然白は18から反発してくるが、22と打たれた時にはちょっとやばいと思った。



黒は23、25と模様の中に

入っていつて防ぎに行かざるを得ず、白が有利になつたようだ。そこで勝負手とばかりに27。これは、あとの反撃を狙った手だったが、打ちすぎだった。白28と引いて30がなかなかの狙い手で、黒は一手で止めることができない。31、33はいくら考えてもわからないが、このあたりは「勘」だけが頼りである。しかし、長谷川名人もこうくると思ったという事なので、案外正しかつたのかもしれない。白36が狙いの筋だが、黒37が自慢の一手。剣先を作りながらの止めで、味がいい。ここでどう来るかと思っていたが、白38は意外だった。しかし、打たれてみるとなるほどという手で、黒39に打たれるのは辛いが、白40と今度は左辺を目標そうという構想である。ここまでなだれ込んできたら黒模様が生きると思っていたが、なかなか主導権を

握らせてくれない。



黒41の時には生きた心地がしなかったが、白48はさすがにごまかしにきたなという手である。しかし、ここら辺で時間が切れ、恐怖の秒読みとなった。悔やむのは黒51。Aに打つ手を考える時間が欲しかった。この後ようやく攻めたものの、やはり勝てる形勢ではなかった。でも、全力を尽くしたのだから結果は致し方ないと思っている。